

## 第 5 回富山市総合計画審議会 議事録

日時：平成 28 年 11 月 28 日（月）10:00～11:10

場所：富山市役所 8 階大会議室

出席者：別紙

議事内容：

1. 開会

2. 議事

(1) 第 2 次富山市総合計画前期基本計画（案）について

(2) パブリックコメント及び市民説明会の概要について

(3) 第 2 次富山市総合計画前期基本計画（案）に対する答申（案）について

3. 今本副市長挨拶

4. 閉会

会長

- ・ 答申(案)につき、ご意見があればお伺いしたい。

委員

- ・ よくまとまっている。気になるのは世界情勢がどうなるのか、日本経済、財政的な面にも不安がある。しなやかな行政体づくりは、お金ばかりではなく最後はハートが重要。答申案については、特に異論なし。

委員

- ・ 特に意見はない。総論 P36「人口規模の維持拡大」に、人口のダムの機能という言葉がある。大きなダムとは別に、水田の果たすダム機能というものがあるように、人口のダムについても、中心市街地が果たす大きなダムだけでなく、各地域の細かい意味での人口のダム機能も考えるという発想が今後、必要になってくると考える。

委員

- ・ 前期の基本計画として 5 年間のまちづくりの指針としては、十分に良いものができている。各種団体、各地域を通じて住民に基本方針の方向性を理解してもらうとともに、単年度ごとの年次計画で微修正をしっかりと行う必要がある。

委員

- ・ 農業・農村の関係では、P5 の都市部と農村部のバランスの観点は重要だと感じた。また、これからはコンパクトシティの団子の部分を活性化していくことが大事であり、一つの手段として、コミュニティビジネスという観点も記載された。また、今後はインバウンドで富山も外国人観光客が増える。観光客は 1 次産業分野において、魅力を感じると考えるので、是非力をいれて進めてほしい。

#### 委員

- ・ すばらしい計画になっている。個別事項のすべてが、市民の誇りにつながるものになればよい。満足感や希望感が膨らむ。

#### 委員

- ・ 企業のことが言及されている。防災訓練など企業の顔が見えない中で、企業のことが盛り込まれたことは良いことである。

#### 委員

- ・ 全体的には完成度は高い。あくまで感想だが、コンパクトシティの概念は良いが、富山市以外の人々のコンパクトシティのイメージは、富山市自身の縮小というイメージがあるので、誤解を払しょくするために、コンパクトシティは都市の機能の活性化であることを強調することが大事だと考える。

#### 委員

- ・ これから可能な限り、協働を第一に考えながら市民と一緒にやっていきたい。答申 P7 の③について、今後、具体的な展開にあたっては、行政がここまでやるんだということ強く出していただきたい。

#### 委員

- ・ よくまとまっている。この計画に沿って是非とも実現してほしい。富山市の郊外では空き家が増えて問題になっている。防犯面においても、空き家問題は重要なことである。

#### 委員

- ・ きめ細やかな計画になっており、市民に求める役割として、協働の意識をうたっている。また、富山市の財政の限界を認識しつつ、絞り込まれた内容となっており、満足度の高い計画となっている。

#### 事務局

- ・ 審議会にお願いした主旨が達成されたと思う。さまざまな意見によってブラッシュアップをしてきた。十分議論されたのではないかと考える。

#### 事務局

- ・ 総合計画は総花的になってしまいがちだが、富山市はコンパクトシティというキーワードがあり、そのコンパクトシティ施策を推進するうえで気をつけなければいけない点についてしっかり押さえている。今後の行政全般にも活かしていきたい。

#### 会長

- ・ そもそもなぜコンパクトシティか。人口減少、高齢化に対して、税金でまかなうことができない。便利に暮らしたいのであれば、できればまちなかに住んでほしい。消防、除雪、道の舗装等、コンパクトシティをなぜ採用したのかということをよく考えてほしい。
- ・ 掃除や除雪など、すべてを市に頼らず、町内や企業自ら動くことが大事である。上越

市の商工会議所では軽トラ市を行い、農村とまちなかの交流で、効果があがっている。町村合併した「町村」部分の人口のダムがうまくいっていない。今後の方向を計画に書かせていただいたが、地区センターや地域の住民とともにまちづくりをしていくことが重要である。

#### 委員

- ・ 網羅された計画になっている。しかし、計画の策定ではなく、ここからが重要であるとする。この計画を理解し、実行する人材の育成が重要。多くの意見が入って良い案になったと考える。

#### 委員

- ・ 人材育成はまちづくりの基本であり、今後も家庭、地域、学校、企業、行政など、相互的な取り組みが必要。暮らしについては、妊娠・出産、高齢期に至るまで地域包括ケア体制の推進、きめの細かい対応が必要。いただいた意見を出来るだけ反映し、完成度が高い計画になった。
- ・ 気になる点は、パブリックコメントや説明会の参加者が少ないことである。市民の理解が今後の重要な課題であり、市民が我がこととして取り組んでいく環境づくりが重要である。市と市民の温度差がないように一体となれるように取り組むことが必要と考える。

#### 委員

- ・ 各委員の意見がうまく集約されている。中心部と山間部のバランスが議論となった。しっかり集約されている。うまくまとまっている。
- ・ 市民の中で企業が強調されたのが、今回の計画の特徴ではないか。できれば、企業の理解を深めるために企業向けの基本計画の概要の冊子を作ったらよいのではないか。企業の参加がまちづくりに重要な意味を持っているということを企業のトップに理解してもらえるような仕組みづくりを考えてはどうか。

#### 委員

- ・ 多様な視点で協働連携に関する意見が出た。都市部と中山間地、中山間地域間での連携、男女共同参画という形での連携もある。どのような形で行政が関わっていくかを書きこんでもらった。また、企業についても書き加えていただいた。
- ・ 今後は若い世代とシニア世代の世代間の連携協働が重要であるとする。
- ・ 総合計画の性質上、基本的な考えを整理したものであり、今後は具体化に考慮していただきたい。

#### 委員

- ・ 意見をしっかり活かしてもらっている。これからは、施策の評価を行う際に、数字だけではなく、しなやかな姿勢で、今後の状況分析を行ってほしい。農山村は人口減少率だけを見ずに、人が減っているが、時代にふさわしい仕組みが、今までとは違う若い人や女性によって生まれているといった動きを見てほしい。

#### 委員

- ・ 基本計画の「学校図書の充実」ではなく「学校図書館の充実」へ変更をお願いしたが、変わっていない理由はなぜか。

#### 事務局

- ・ 趣旨は理解したが、教育大綱、教育基本計画などの表現に合わせた。

#### 会長

- ・ 館にこだわると、対応が難しくなる。こだわる理由は何か。

#### 委員

- ・ 学校図書館の設置は義務付けられている。教育基本計画には学校図書館が位置づけられている。

#### 会長

- ・ 本を読まない子供が増えてきている。この問題は市に任せたい。言葉より中身。司書の充実を書き込んでいる。

#### 委員

- ・ 県内の U ターン就職率が低い理由として、大学へのアクセスが悪いことや生活環境が悪いことなどが挙げられる。企業が学生を受け入れやすい環境づくりが重要であり、そのために、例えば大学卒業生に対する窓口があれば、もっと都会から富山へ来た大学生は富山に残るのではないか。若者が富山県で活躍でき、大学生が残るような富山県を作るべきではないか。また、企業の中にも医療や保育、経済などさまざまな分野があるが、その分野の方々と連携を取りながら、高齢化社会の中で活躍できる若者を残すべきではないかと思う。

#### 会長

- ・ 市の計画を超えるテーマだが、重要な問題である。
- ・ そのほか、意見があればペーパーにして出していただければ、市の方から回答をする。本日のご意見への対応は市ときちんと進めるので一任を。その上で12/2に市長へ答申する。

以上